

# 久納会計FAXニュース



Kunuh Accounting Office

久納公認会計士事務所

## カンボジアに行ってきました

平成28年10月31日

☆ 臨時休業のお知らせ

11月4日(金)は社員旅行のため、お休みさせていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが、何とぞご了承ください。なお、緊急の場合は久納の携帯 090-2189-3337までご連絡ください。

この9月にカンボジアに行ってきました。カンボジアというと、「内戦と地雷の国」というイメージが強いと思いますが、もう過去の話でした。首都プノンペンでは高級車がたくさん走っていて、町全体として活気があり、そんな負のイメージはかけらも感じられません。

経済成長率は2010年から2015年の平均で7%となっており、他の東南アジアの国と比べて高い水準にあります。まだまだ何も無い国ですから、今後の成長も確実視されています。

カンボジアの人口は1,550万人ほどで他のアジア諸国と比べ多くありません。また、プノンペンの人口は200万人ほどです。人口構成は25歳未満が約50%となっており、若い人が多いのが特徴です。

言語はクメール語ですが、話す人口が少ないため、ビジネス用に英語を習得する人が多く、日本人とのコミュニケーションには英語を使います。現地の日本人はクメール語を覚える必要はないようでした。

### 通貨はドル

カンボジアの現地通貨はリエルですが、ほとんど使われておらず、ドル紙幣が実質上の通貨となっています。アメリカドルが完全に使えます。アメリカ人でさえ嫌がる100ドル札もコンビニで使えます。

お釣りはドルで返ってきますが、1ドル以下のお釣りはリエル札で返ってきます。銀行の送

金もドルで行われ、大きな単位のお金の決済はすべてドルだそうです。このため、為替のリスクは現地通貨を使用する他のアジア諸国と比べ少なく、カンボジアに投資をする際の大きなメリットとなっています。

物価水準はだいたい日本の4分の1から5分の1くらいと推測します。

### 賃金水準と生産性・勤務態度

労働者の現在の最低賃金は月140ドルですが、この5年で80ドル→100ドル→120ドル→128ドル→140ドルとほぼ倍近くまで上がってきています。現地の日系企業の責任者に話を聞きましたが、賃金上昇は政治的な人気取りのためであって、生産性の上昇が伴っていないので、経営的にはとても大変だということです。実際の生産性は中国の半分、ベトナムよりも低いという評価もありました。欠勤、遅刻は当たり前で、あまり悪いと思っていないようですが、こうした点は他の東南アジアの国でも同じです。

最低賃金以外にも皆勤手当(10ドル)、通勤・住宅手当(7ドル)が義務化されています。残業は50%増し、22時以降の深夜残業は100%増しです。

家庭事情で学校を中退することが多いため、まともに教育を受けている人が少ないことも一つの特徴です。小学校を卒業するのは入学時の半分だそうです。識字率も2010年の調査では78%となっています。

### 国民性・クメール料理など

国民性は穏やかですが、いったん敵対するととても残虐になるところがあるとガイドさんが話していました。渋滞していても、それほど車のクラクションの音はうるさくなく、ところが穏やかさの一つの証拠です。ただ、約束

を守らないことも多く、自分の都合だけで約束を反故にすると現地の日本人から聞きました。

カンボジア料理(クメール料理)は、食べ慣れていないせいか、あまりおいしくありませんでした。この点ではタイやベトナムの方が日本人には合っているようです。

## 親日国家

親日国家である一つの証は、500リエル札に日本の国旗が印刷されていることです。他国の国旗がその国の通貨に印刷されることは滅多にありません。国旗は昨年完成した「つばさ橋」と共に印刷されています。この「つばさ橋」はメコン川にかかる全長2.2キロの橋で、日本の資金援助により10年の歳月をかけて完成したもので、日本の経済援助の象徴となっているものです。名前も日本語の「つばさ」が使用されています。

ただ、親日よりも親中の国であるといえます。中国語を話す人たちも多く、亡くなったシアヌーク殿下も北京で亡くなっています。国王は今でも健康診断に北京に行くということです。

## インフラの状況

電力料は高く、日本と変わりません。供給の3割をベトナムなどからの買電に頼っています。この解消にはあと3年ほどかかるようです。

水道水は日本の自治体の協力(北九州市)のため、「飲める」ということでしたが、怖くて飲めませんでした。

鉄道網はありません。鉄道は南の港町のシアヌークビルへの南線とシソボンまでの北線の2本だけです。いずれの線も、とても市民の足となっているとはいえない状況です。

地下鉄はもちろんありません。他のアジアの国と同様ですが、鉄道が整備される前に自動車の時代になってしまったので、公共交通機関はなく、交通渋滞はどうしようもありません。道路はまだまだです。幹線でも舗装は悪く、水はけもよくありません。高速道もこれから建設が始まります。

## 税制など

税率は個人の最高税率20%、法人税も20%です。地方税はまだないそうです。

税制はまだ脆弱です。特に個人から直接税金を徴収することは難しく、企業が個人から徴収し、国に納める形になっています。このような状態なので、個人の確定申告制度はありません。

カンボジア国民は報酬や給料から源泉徴収されるという考えがなく、給料や報酬から差し引くことができないため、企業が実質的に給料や報酬にその税金分を上乗せして、負担しているというのが実態だそうです。このことは実質賃金が最低賃金よりも税金分だけ高いことを意味します。健康保険・年金などの社会保険制度もまだありません。

消費税に相当する付加価値税は10%となっており、企業が納付しますが、個人事業主が納付することはありません。

また、日系企業は税制を守るけど、韓国企業・中国企業はまともに税金を支払っていないという話も聞きました。

## 金持ちが多い

とにかく驚いたのは、いい車がたくさん走っていることです。トヨタ車はもちろんですが、レクサスも多く、ロールスロイス、レンジローバー、ベンツも多く見かけました。

富裕層が多いことの理由の一つに、土地の価格上昇が異常であったことがあります。プノンペンの中心地では、2000年以降の約15年間で土地の価格が400倍になったと言われています。不動産開発に伴う土地成金がものすごく多く生まれたわけです。しかし投資は続いているので、貧富の差はまだ開きそうです。

カンボジアにご興味ある方は、所長の久納までご連絡ください。アンコールワットも見てきましたので、観光に行かれる場合は多少アドバイスもできると思います。以上